

○議長（茅沼隆文）

続いて一般質問を行います。

7番、下山千津子議員、どうぞ。

○7番（下山千津子）

7番、下山千津子でございます。通告に従いまして、次の質問をさせていただきます。

新時代を開く教育の町づくりに向けた施策の展開について伺います。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が、本年4月に改正され施行されております。改革の柱は、首長が教育行政に直接関与する仕組みが出来たことと、教育長の権限が強化され、責任体制が明確になったことでございます。

首長の教育行政の関与については、賛否両論がいろいろございました中で、法改正がなされました。首長が今回の法改正を受けて、どのような対応を取るかは国民の一大関心事であり、開成町民にとりましても、今後の教育の展開において、府川町長の手腕に期待するところでございます。

教育委員会制度の改革を踏まえての開成町の教育行政の展開について、次の4点について伺います。

1 問目、今回の法改正で「総合教育会議」が設置されることとなり、開成町教育行政の指令塔の役割を果たすことになるが、現状は。

2 問目、道德教育の進め方が、今焦点の一つとなっている中で、町長の考えている「土曜学校」での道德教育の特色は。

3 問目、本町において全町民が教育に関わる仕組みづくりを進めるとされている。このことの具体的な方策はどんなものですか。

4 問目、地域の教育力日本一を目指すことへの具体的な方策はいかがでしょうか。以上、壇上からの質問とさせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは下山議員のご質問にお答えします。一つ目の総合教育会議が設置されることとなり、開成町教育行政の指令塔の役割を果たすことになるがということについて、お答えします。

まず、総合教育会議について、改めて説明をさせていただきます。平成27年4月1日に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が施行され、全ての地方公共団体において、首長が「総合教育会議」を設置することが規定されました。この会議では、教育に関する大綱の策定や教育の条件整備等、重点的に講ずべき施策、児童・生徒等の生命・身体の保護など、緊急の場合に講ずべき措置について、町長と新教育長、教育委員で協議・調整を行います。

「総合教育会議」の設置につきましては、教育長が9月末に任期の区切りを迎え、この議会に新教育長任命の同意議案を提案することを勘案しまして、8月設置という

当初の予定を改めまして10月の設置として、新教育長制度への移行と同時に、第1回会議を開催することとしました。

総合教育会議の設置による効果としましては、町長の教育行政に果たす責任や役割が明確になるとともに、私が公の場で教育政策について議論することが可能となりました。

私と教育委員会が協議・調整することにより、両者で教育政策の方向性を共有してまいりたいと考えております。

なお、「総合教育会議」において、教育の目標や施策の根本的な方針を明記した教育に関する大綱を策定することとされており、会議の中で議論を尽くし、年内に大綱案を策定し、平成27年度中に大綱を完成させていきたいと考えております。

大綱策定にあたっての基本的な考え方としては、平成21年3月に制定をした「開成町人づくり憲章」と「教育振興基本計画」を基礎として、「教育の町かいせいの将来像」の基本的な考え方である、全ての町民が豊かな自然の中で、健康で潤いに満ちた幸福な生涯を送ることのできる社会を実現するため、町名の由来である「開物成務」の精神で、人づくりに取り組むことを方向性として盛り込むとともに、現行計画との整合を図りつつ策定を進めていきたいと考えております。

教育長や教育委員と連携・協議を進めていく中で、開成町の未来を創る子どもたちが健やかに育っていくよう、教育の町かいせいを推進したいと考えております。

以下のご質問については、私の考えを受け、教育委員会で検討したより具体的な内容となりますので、教育長に答弁をさせます。よろしくお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

それでは、二つ目の道徳教育の進め方が今焦点の一つとなっている中で、町長の考えている「土曜学校」の道徳教育の特色は、以降につきましては、教育内容に係る部分でありますので、私のほうでお答えさせていただきます。

道徳教育については、小学校1年生から中学生までの9年間、週1時間で年間35時間、トータルで約315時間の授業を実施しています。

授業の主な内容としましては、主として自分自身に関すること、主として、ほかの人とのかかわりに関すること、主として自然や崇高なものとかかわりに関すること、集団や社会とかかわりに関すること、この四つの部分について、成長にあわせて2年間ごとの細かな内容で指導を行っております。

授業の進め方については、地域教材の開発、活用、保護者や地域の人々の積極的な協力を得ながら進めております。

開成町における「土曜学校」の内容や考え方につきましては、先日、吉田議員の質問で述べさせていただいたとおりでございます。

土曜学校での道徳教育については、特に地域ですばらしい実践を積んでいる方をお招きして、子どもたちともに語り合う場を設けるなど、具体的には、地域やふるさと、

郷土の偉人について学ぶ機会を設け、今後は学校の授業の中でのゲストティーチャーの活用とともに、土曜日の講座等を積極的に開催をしながら、子どもたちの道徳性の向上に努めていきたいと考えております。

続いて、三つ目の本町において全町民が教育に係る仕組みづくりを進めるとされていることの具体的な方策案は、についてお答えします。

開成町では、平成19年度から文部科学省の指定研究を受けまして、学校運営協議会制度、いわゆるコミュニティ・スクールの研究を進めてまいりました。昨年までは小学校2校、中学校で実施しておりましたが、今年度から幼稚園でも制度を取り入れ、さまざまな立場の方々を委員として登用し、全町民の意見が学校、園の経営に反映できるようにシステムをつくり上げております。

しかし、まだまだ研究途上の部分もありますので、広く園・学校の教育方針を理解していただくとともに、ご意見をいただきながら進めてまいりたいと考えております。

また、開かれた学校を目指し、学校へ行こう週間や学校開放日を設け、より多くの町民の方々に学校や子どもたちの様子を見ていただく機会を、年間を通して実施しておりますが、さらに実施する内容を充実させていきたいと考えております。

次に、四つ目の地域の教育力日本一を目指すことへの具体的な方策について、お答えします。

開成町では、学校地域安全推進委員会をはじめ、多くの方々の支援のもとに子どもたちの育成を図られております。議員の皆様にも、朝早くからご参加していただいておりますことを、この場お借りして、お礼申し上げます。ありがとうございます。

また、健全育成会、生涯学習推進委員会、子ども会、子ども会育成会、婦人会等の全ての組織の目標の中に、子どもたちの健全育成の主旨が入っているなど、地域の人々のおかげなくては、まさに子どもたちの成長はないと考えております。

地域教育力は一人一人の持っていられる貴重な体験や指導力を、それぞれの場で子どもたちの育成に力を注いでいただけることが大切であると考えております。

各委員会等の会議の中で出される貴重なご意見を共有して、町全体として取り組んでいけるよう広報活動にも力を入れていきたいと思っています。

これにより、多くの町民の方々がさまざまな場で取り組んでいる姿を知ることにより、一人でも多くの町民に関心を持っていただけることが、地域教育力を高め、立派な自立した子どもたちの育成につながると考えております。

先日、学校運営協議会合同会議を開催し、地域、家庭、学校の役割と連携の大切さについてご講演をいただきました。講演会後のアンケートの中にも、たくさんの方々が、子どもたちの育成には、町民みんなで協力することが大事であると改めて感じたというご意見がたくさん出されました。少しずつでも行動を起こしたいという積極的なご意見もたくさんいただきました。地域の皆さんの支援を力強く思っております。これからもご協力をよろしくお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

一定の答弁をいただきましたので、順次再質問をさせていただきます。

1問目の総合教育会議が、平成27年8月から10月に延期されました。理由は、現教育長の任期が9月30日までということですが、それは自明の事柄であります。現教育長に続けて、新教育長として務めをいただくのならば、8月に第1回を開催することができたのではないかと思いますのですが、町長の責任は大変重いと感じてございます。

町長の2期目の公約で、教育のまちづくりはメインテーマでございます。それを具体的に実現、実行する上での体制をどのようにお考えか、所見を伺います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

初めは8月に総合教育会議を開いてという話をさせていただきましたけれども、それは10月以降に変更させていただいたのは、教育長の任期が9月末ということで、議会に承認をいただいた後でないと、同じ人か違う人か、それは別にして、それはまずいのかなと。新しい再任された中、また、新旧再任されるのかわかりませんが、そういう中で、教育長とまた教育委員会の中で総合会議を開催させていただいて、大綱をつくっていると考えておりますので、そういうことを含めて、総合教育会議の時期の変更をさせていただいたとご理解をいただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

教育の町をうたっているわけでございますので、今回のようなことがないように、町民と議会への公開度をこれまでよりもアップさせて改善が進められるような体制にするお考えは、町として独自性を持ってみてはどうかと思うのですが、この点はいかがでございしますか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

4月に2期目の選挙がありまして、その選挙の公約の中で、教育に改めて力を入れていきたいと。それは開成町が今年ちょうど60年という区切りの中で、60年前を振り返ったときに、開成町の名前が開成小学校というところからつけられたというのを改めて考えたときに、この60年の区切りの中で、教育にさらに今まで以上に力を入れていくということは、開成駅周辺の区画整理も終わりました、ここにできるだけ若い世代の人に早く移り住んでもらうためには、子育て支援とともに、子どもの教育というものを開成町としても改めて外に強力に発信をしていくということが大事ということで、選挙の2期目の中で、そのような形で、特に土曜学校をこれから進めていきたいと、選挙の中で話をさせていただいて、今、進めておりますけれども、やは

りこれをいきなり進めるのに、なかなか完璧には進めませんので、徐々に、どうやって進めていくかと。今ある中においても、学校の中で、開成町においては、地域の人たちの力を借りて、教育長から話がありましたけれども、今、取り入れている部分があります。それは学校の中の教育、特に道德の話が先ほど出ましたけれども、学校の中の道德とは別に、今度は地域の人たちの力を借りて、子どもたちの道德心を高めていきたいと私は思っています。

そのときに、先生の指導という立場の形ではなくて、今、実際、現実的にやっているのはどういうことだと、私、実感として考えているのは、これは夏祭りにおいても、各地区すべて回らせていただきましたけれども、子どもたちが夏祭りに参加していると。

つい先日、パレットガーデンの敬老会においても、子どもたちが、お年寄りの皆さんのためにいろいろな催し、歌を歌ったり、いろいろなイベントをしたり、ゲームを考えたりということで、かかわっていただいている。開成町のよさというのは、既に実際あると私は思っています。こういうかかわりは、先生からの教育という意味ではなくて、地域の人たちとかかわっていることに、自然とお年寄りの皆さんとのかかわり、また、人への思いやり、そういう意味において、開成町のよさをもっともっと引き出していきたい。それを今度土曜日の学校の中で入りこんで、その力を発揮させてもらいたいなど。そういうときに、いろいろな地域の人たちの力を見つけ出すことがまず大事なんですね。今、いろいろな意味で目に見えている形では、酒匂川のいろいろな研究している皆さんもいられますし、そういうところの中で、地域の自治会の皆さんの力を借りて、どういう人たちが地域の中に、そういういろいろな能力を持った人たちがいるかというのをまず見つけ出すことが、先にあると私は思います。

そういう人たちを今度は来年度以降、学校の中に、小学校、中学校、土曜日の中で、そういう人たちの力を借りて、子どもたちの道德心を高める。また、体験教育をしていただくことによって、開成町のよさを知っていただいて、開成町で育った子どもが、一時的に外に出たとしても、また開成町に帰ってきていただけるような子どもに育っていくことはすごく大事なことだと思いますので、子どもの教育においては、単に学校の先生の教育だけではなくて、地域の力を借りて教育力を高めていきたいというのが、2期目の選挙で私が訴えたことですので、それを具体的に、今、下山議員から言われましたように、進め方が少し遅いというご批判もいただきましたので、これは真摯に受けとめ、きちんと教育委員会、教育長と議論をしながら、今後きちんと進めていきたいと。来年度以降、少しでもそれが目に見える形にしていきたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

町長の熱い思いは受けとめさせていただきましたが、土曜学校に関しては、また後ほど質問をさせていただきます。町民と議会への公開度はどのようにお考えでござい

ますか。またちょっとお伺いいたしますが。

○議長（茅沼隆文）

下山議員、もう一度お願いします。

○7番（下山千津子）

今、ご質問しましたように、こういった遅れが出たのは、町民と議会への公開度を今までよりもアップさせて、改善が必要ではないでしょうかということでお聞きしたので、よろしくお願いします。

○議長（茅沼隆文）

行政推進部長。

○行政推進部長（加藤順一）

当初の開催を8月から10月に変えたという部分については、あらかじめ一度は質問に答えた形で議会にお示ししたものを変更しているということで、その変更の過程をお知らせしなかったという部分につきましてはおわびしたいと思います。

総合教育会議自体につきましては法の求めるところでもありまして、会議自体は公開してやっていきますので、それはご了承いただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

では、次に、10月に第1回目の総合教育会議を開催すると言われましたが、その際に、町長から大綱案は示されるのか。そしてまた、大綱策定に当たっての基本的な考えは、開成成務の精神にのっとりつくられました開成町人づくり憲章と教育振興基本計画をベースに策定されるようでございますが、法の改正を踏まえて、町長は何をプラスして、府川カラーを盛り込んでいかれるのか。町民が一番知りたい、期待するところでございます。進捗状況をお示しいただければと思います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

10月の総合会議設置に当たって、町長としてのあれは、先ほどお話ししましたように、4月の選挙で、教育に力を入れていく中で、特に土曜学校については、スタートさせていきたいと考えておりますけれども、まず、基本的に、開成町の進むべき方向というのは、人づくり憲章というのがありますので、さらに議会の皆さんにも承認をいただきましたけれども、振興計画というものをきちんとつくって、それにのっとって今までも進めておりますので、この基本はきちんと守っていくという中に、そこにさらにプラスアルファとして、この選挙の2期目で公約した部分をこの中に入れ込むというのが、今回大綱をつくる時の一番大事な部分だと思いますので、やはり教育委員の皆さんと、きちんと私の考えを出して議論していかなければいけないので、押しつけではいけないので、皆さん方にきちんと納得していただく中で、これからも進めていかなければいけない部分がありますので、そういう意味において、一番大事

なのは、開成町の開物成務の精神にのっとなって人づくりをきちんとやっていくと。そういう中で、先生だけにできる部分と、町ができる部分と、役割分担があると私は思っていますので、できるだけ、学校の教育の中に、今度は土曜日という中で、先生方に授業をやっていただくのではなくて、開成町のいろいろなすぐれた能力を持った地域の人たちに授業をやってもらいたいと。そういうイメージで受けとっていただきたいなと思います。それが開成町全部の地域力アップになるのではないかと今考えております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

土曜学校で、町長は道徳心を学んでいただくというふうにお答えいただきましたが、町長がお考えになる、土曜学校の道徳教育に対する実際的な教育はどういうことをお考えでございましょうか。どうしたら、道徳心のすぐれた子どもを育てることができるとお考えでございましょうか。お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

先ほど、いろいろ話してしまった点もあって、ダブってしまうかも知れませんが、やはり今現在において、開成町のいろいろな自治会ほか、地域の人たちが、子どもたちに対して、1日、15日の登校日の安全指導も含めて、いろいろなことにかかわってもらって、それは道徳心の向上に実際に役立ってもらっているなど、私はすごく実感しております。先ほど例に挙げましたが、夏祭りにおいてもそうですし、敬老会においてもそうです。これから各地で敬老会をやっていただきますけれど、必ず子どもたちがお年寄りの皆さんと交流ができるように、そのような形で考えてもらっている自治会がたくさんあります。自治会としての地域の子どものための力というのは、すごく今感じておりますので、これを今度は学校の中にとというのが、土曜学校という言葉を使っておりますけれども、その力を、今度は地域は地域でやっていただいていますけれども、その地域の人たちが学校の中に入り込んでいくというのは、学校の公開をはじめ、いろいろ今もやっていますが、その中に入っていきることによって、体験教育、具体的な言えば、私も酒匂川の平成22年の水害のときのいろいろな写真を持って、子どもたちに九十間土手で、教師としてではないですけど、講師として、子どもたちに話をさせていただいたこともありますけれども、そういう人たちももうやっているんですけども、現実的に学校の中で取り入れて。それは別枠で今度は取り出して、まだまだほかにもたくさんいられるので、そういう人たちを発掘して、この土曜日の中でやっていく。やっていくことによって、結果的に子どもたちの道徳心は向上すると考えていますので、取り分けて、道徳教育という言葉ではなくて、それは学校でやっていただくことで、町がやっていくのは、体験教育を含めて、実際に経験した人の言葉のほうが、私は重みがあるのかなと、子どもたちの心に

受けとめてもらえるのかなと感じておりますので、そのような形で考えております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

学校現場で働いている先生が言われるには、道德の教科書はありますが、机上の教えは間接的な体験で、本当の意味での道德心を学ぶのは大変難しいとおっしゃってありました。体験型の授業を組んで、学校以外の人々の人生観とか、生き方とかを学び、子どもたちに気づいてもらい、その中から道德心を学んでもらうのが理想的な形だそうです。

そういう点で、私は、土曜学校で、子どもたちがどんなことを学んでいくか、感想文を書いてもらったりすると、心理状態などがわかり、今後の参考になるのではないかなと考えるのでございますが、いかがでございましょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

そうですね。やった後、子どもたちに感想を聞くというのは、その後につなげていくのに大事なことだと思います。

今、学校教育の道德、先生の話が出ましたけれど、それは学校は学校できちんと、教科書も含めて、机の上の議論であろうと、それはやってもらうことは大変必要だと思っています。その足りない部分を町が今度は引き受けて、地域の人たちの力を借りて、体験教育という形で、土曜学校という形でやっていけば、学校の勉強と実体験の勉強を合わせれば、子どもたちにとって、もっとよくなるのではないかというのが、私の考えであって、それを経験した子どもたちの感想というのはきちんと聞いて、それをその次につなげていく必要がありますので、そういう意味で、作文ではなくても、そういう感想というのは、必ず先生方もやっているはずだと私は思いますけれども、それはきちんとこれからもやっていく必要があると思います。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

開物成務の町とは、町全体があたかも学校のように、町民の誰もが教師となって、皆で教育にかかわっていく町を理想として理解をしております。そうした町をつくるに当たって、町内の人材を積極的に活用されていくことが重要と考えます。教職員のOBの方や、さまざまな専門的知識のある方のネットワークをつくり、開成町の学校現場に登用されていくことが必要かと考えます。

土曜学校は、学校では学べないようなことを学んでいくということでございますので、その点をお聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

下山議員、質問をもう一度繰り返してください。お聞きになりたいことを簡潔に申

し上げてください。

○7番（下山千津子）

土曜学校では、学校で学べないようなことを学ぶということで、開成町には、教職員のOBの方や、さまざまな専門知識のある方のネットワークをつくり、開成町の学校現場に登用されていくことが必要かなと考えます。その点のお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

開成町、地域の力を発掘させていただきたいという中で、先生のOBの方も開成町はいられます。開成町に限る必要は、私はそういう意味ではないのかなと。もっと広く2市8町あたりの先生のOBの方、できるだけ先生のOBの方は中学校で、学力も含めてレベルアップする部分において、活用していったほうがいいのかと。

小学校に関しては、できるだけ体験教室、また、地域の二宮尊徳さんもいられますので、そういうところも含めて、いろいろな研究をされて、また、そういう団体も小田原にありますので、そういう人たちの力を借りてやっていくというのもすごく大事だと思いますので、土曜日の中でやっていくために、やはり地域の人材の発掘と、今言われたように、ネットワークをこれからきちっと構築をしていかないとカリキュラムが組めませんので、そのような形に、これからきちんと準備を進めていきたいと思っています。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

今月4日に、第1回の9月会議が開催されたときに、同僚議員の土曜学校の取り組みの答弁では、今年度まず中学校で施行し、来年度から学期に一度程度の割合でカリキュラムを組むと言われましたが、その程度の頻度で浸透していかれるとお考えでしょうか。もう少し町長がリーダーシップをとられ、土曜学校の回数を増やしてみてもいかがでございましょうか。お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

4日のほかの議員さんへの答えの中で、教育長が答えた部分がありますけれども、先に言われたように、人材の確保をまず先にしないと、やろうにもできない部分がありますので、まずできることから始めることによって、やっていきたいなと。

来年度以降は、今言われたように、それは月1回なのか、学期に1回なのかというのは、教育委員の皆さんのほか、そういう人たちとも検討しなければいけないので、それはできるだけ多くできればいいんですけども、現実的にできる部分からまず始めていきたいと。そこが目に見える形に持っていくというのは、すごく大事だと思います。

ますので、今でも学校でやっているんですけれども、それとは別枠という中で考えておりますので、その辺は総合会議の中で教育委員の皆さんと議論しながら、来年度どのように持っていくかというの考えながら進めていきたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

下山委員。

○7番（下山千津子）

先ほど土曜学校には、郷土の偉人の人たちを起用されるとご答弁いただきましたが、例えば、どういう方をお考えでございますか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

学習指導要領の中で学ぶ歴史上の人物というのは、36人ほどいるんですけれども、それは社会科の中できちっと歴史上の人物として扱っていくんですけれども、この足柄地域の偉人は、先ほど町長が言われたように、二宮金次郎さんを扱っていくのが一番いいのかなと思っております。

あとは慣例的には、酒匂川の堤防を築きました田中休愚であるとか、それに関して、福沢諭吉であるとか、ありますけれども、基本的には今のところ、田中休愚と二宮金次郎がこの地域としては、昔ながらにして、すばらしい功績を挙げた人として、学習教材としては取り扱っております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ただいま、田中休愚の話をされましたが、開成町では、足柄歴史発見クラブの皆さんの協力で、酒匂川の治水について、総合的な学習が展開されてございます。この総合的な学習をもう一步進めて、酒匂川の水を飲料水として、大都市部の子どもたちとの交流を図るというお考えはいかがでしょうか。特に川崎市は、富士山の噴火後の酒匂川の治水工事を行った田中休愚が、宿場の名主を務めたところであります。300年の歴史を学びながら、双方の子どもたちが交流することは大変に意義が深いと考えますが、その点はいかがでしょう。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

お答えします。学習内容についてのいろいろなご要望でございますけれども、適宜、学校におろしながら、教材化できるかどうかということについては、校長・園長会を通して常にやっているわけなんですけれども、4年生の教材の中に、先人の努力ということで、酒匂川が歴史上果たした役割、それに係る人物として田中休愚の勉強をして、それと今、議員おっしゃるように、川崎に水が行っているとか、そういうことにつきましては、4年生の水道の勉強の中に三保ダムの役割という中で、多目的ダムで、水

道が都市部の人たちに行っているという学習はしますが、それを利用している子どもたちとの交流ということについては、ご意見として承っておきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今の教育長の答弁というのは、学校の中でやっている話で、私は土曜日、教育とは別にやっていきたいという話をしていますので、今の川崎の子どもたちと、田中休愚もはじめ、そういう過去の歴史がありますので、町長が教育委員会に提案して、子どもの交流をやっていくということになっていきたいと思っていますので、私としては、それが今度、開成町の町長として教育委員会に、いろいろなことの議論を投げかけますし、そのように教育長に指示をしていくという流れに持っていきなと思っていますので、教育長が言っているのは学校の授業の話であって、私は今度、それ以外に総合的な、体験教育も含めて、そういうきっかけの中で、進めていきたいと、開成町の子どもたちをもっと広い範囲の中で、体験教育を含めて広げていきたいと思っています。そのときにやはり教育委員会の皆さんのご協力が必要ですので、そういうところに私が議論の投げかけをして、これから進めていくというふうに考えていただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

そういった意味では、学校では学べないという実体験で挙げれば、今、若い方々の新築の家などに伺いますと、住居環境が欧米化し、日本間がない家もございます。開成町には、明治40年から続いておりまして、今は5代目の畳職人で頑張っている若い青年もいられますし、大工さんもいられますし、このような方々に協力をいただき、実体験を取り入れるというお考えはいかがでございましょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

畳屋さんはよく知っておりますので、阿波踊りでもお世話になっているので、それもすごく大事なんですけども、今も現実的に、特に中学生は職業体験という形で畳屋さんにも確か行っているはずですよ。開成町の町内の自転車屋さんとか、工場系関係にもいろいろお願いをして、職業体験ということをしていただいているのが一つあるということも認識をいただきたいと思います。

地域にあるそのような歴史あるもの、今年の2月1日においても、匠ということで、いろいろな能力のある人たちを認定させていただきましたので、そういう人たちの力は、これから土曜学校の中で力を発揮していただいて、子どもたちのためになるように持っていきなと思っています。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○ 7 番（下山千津子）

3 問目の再質問をさせていただきます。全町民が教育に係る仕組みづくりを進める方策でございますが、町長の答弁にもございましたが、この平成 27 年 8 月 27 日に、開成町教育委員会主催で、会場は開成町民センター 3 階で、平成 27 年度開成町立学校運営協議会合同会議が開催されました。講演は、「地域とともにある学校づくり、コミュニティ・スクールは地域と学校をつなぐ夢の架け橋」というテーマでございました。講演されたのは、大分県教育センター所長の梶原敏明氏でございました。大変素晴らしい講演でございました。教育委員会主催ということで、私も勉強させていただきました。感謝いたします。

この梶原氏の紹介をいたしますと、平成 25 年 4 月に、文部科学省初等中等教育局コミュニティ・スクール推進委員 C S コミュニティ・スクールのマイスターをお取りになっている方でございます。マイスターというのは、コミュニティ・スクールを進めていく上でのプロフェッショナルだそうでございます。その方が、パワーポイントでコミュニティ・スクールの説明をなさりました。基本的内容は、子どもたちにさまざまな成果が出ている事例をデータでお示しになり、大変わかりやすく説得力がございました。特に私が感銘を受けましたのが、基本的生活習慣と学力との関係でございます。

私が前回の 6 月の日曜議会で、早寝、早起き、朝ご飯を食べる規則正しい生活を送っている子どもたちは、全般的に落ちついておりますし、体力も学力もよいデータが出ていると紹介してございます。

実は、開成町でも、平成 21 年から取り組んでございました。早起きしますと、神経の伝達物質のセロトニンが朝方、盛んに分泌し、感情の暴走を防ぐそうでございます。ちなみに大人も同じことが言えるそうです。

開成町は、平成 19 年から基本計画に基づきまして、コミュニティ・スクールを展開されてきてございますが、今後、どのような成果と目標をお考えか、お示しいただければと思います。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

お答えします。先ほどもお話ししましたように、今、研究途上で、それぞれ目標を掲げましても、なかなかうまくいかないところもあるし、上手にできるところもあります。基本的に振興基本計画は 10 年計画で立てておりますので、その 10 年度の最終年度には、目標が全て到達できるようにというのが、一定の目標です。

ただ、子どもたちは 1 年生で入学しまして 9 年間、途中の子どもは 2 年、3 年とかという間しかかかわれないところもありますので、今の計画は 26 年からやったものですから、5 年間で最終目標に到達しようということを考えています。ですから、成果は、とにかく基本計画の目指す子どもたちにしたいということが目標でございます。

それについては、先ほどもお話ししましたように、地域の方々のさまざまなご協力、ご支援をいただきながら目指す子どもたちに向かっていきたいと考えています。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

このご講演の中で、私がもう一つ感銘を受けたのが、生徒の自己肯定感、社会参画に関する意識の調査の中に、アメリカ、中国、韓国の生徒に比べ、日本の生徒は、自分を価値ある人間だという自尊心を持っている割合が半分以下だということでございます。みずからの参加により、社会現象が変えられるかもしれないという意識も低いようでございます。

お互いの人格を尊重する道德教育などを土曜学校に組み入れて、開成町ならではの独自性を持った教育をなされれば、今、大変深刻ないじめ問題などにも光を当てられるかもしれないと考えます。この点、町長はどういうふうにお考えでございましょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

いじめの問題という話もありましたけれども、そのときにどうやって目をつけ、先に進むかということはすごく大事なことで、早く見つけるには、地域の人たちの目というのは、すごく私は大事だと。そういうときに、例えば、学校の中のことは学校の中でお任せをする部分はありますけれども、学校から出たときに、例えば、地域のどこかの神社あたりでたむろしていたとか、子どもたちが何かしているとき、その地域の人たちが、どうかかわるか。そういう目を持っていることによって、それは発見が早ければ、そこで芽を摘むことは私はできると思います。そういう力を地域力として、開成町はもともとそういうポテンシャルが私は高い町だと思っています。地域の大人の人たちが子どもたちに対して温かい目を向けております。そういう人たちが、どうやって発揮するか、発揮できるかというのは、それは引き出していかなければいけない部分があって、自治会活動の中で、すごい大きな役割を私は果たしていると思う。

そういう意味を含めて、開成町は自治会加入率を含めて、自治会支援を大きな力として打ち出している部分でありますので、この自治会活動が全てというわけではありませんけれども、やはり子どもたちにとっては、すごく大きな力になると。

その中に特にまた大事なのが、子ども会の加入率が低いという課題が出されておまして、この問題をどう解決するか。子どもたちの子ども会の加入率が低いということは、その親、若い親の世代とのかかわりが離れてしまう危険性がありますので、やはりこの問題についてもきちんと対応していくというのが、私はすごい大事になっていると思いますので、さまざまな課題がありますけれども、地域の人たちの力を借りるというのが一番大きなことだと。学校の授業とか、道徳心とか、そういう勉強はもちろんありますけれども、それ以外にできる部分がたくさんある。それを今度、開成

町の町長が学校の中に入っていく、そういう権限も与えられましたので、そういう意味も含めて、教育委員会といろいろな協議をしながら、また、自治会の力を借りながら、子どもたちの健全育成のためにも、いじめがゼロになるのを目標にやっていきたいなと思っております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ご答弁いただきました。この開成町のコミュニティ・スクールは、学校運営協議会が主に計画を立てていると推測してございます。

この学校運営協議会の会議などは、どのくらい年間やっておるのでございますか。お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

お答えします。基本的には、各学校ごとの学校運営協議会を設立しております。先ほどお話ししましたように、小学校2校、中学校、幼稚園とも設置しました。

開催につきましては、大体四、五回が通常です。報酬を払うという条件もありますので、会議については、正式に予定した報酬の払える段階で、開催を校長から要求されたときに、ではいいですよという形で、教育委員会としては認めているという段階です。

それと同時に、先ほどお話がありました、27日に行われましたような合同会議というのを1回行いまして、一円に3校がそれぞれ足並みをそろえられるような研修会というのを設けております。ですから、都合を各委員さんについては4回ないし5回、それから、年によっては、関東ブロック、あるいは東海ブロックの研修会に委員さんに出席していただくということもありますので、年によっては5回ぐらいになるかなと思っています。

そのほか、校長が必要があれば開催を認めていますけれども、今のところ、四、五回というのが現状です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

確認させていただきたいのですが、1校につき、年間4回かそのぐらい、協議会を開催しているということですか。わかりました。

では、コミュニティスクールへのパワーポイントの期待でございますが、地域の活性化の循環システムということで、人づくりと地域づくりの好循環を生み出す、学校が変わる、学校が変われば教師が変わる。教師が変われば子どもが変わる。子どもが変われば家庭が変わる。家庭が変われば地域が変わる。地域が変われば町が変わるということでございますので、ぜひ、今後ともコミュニティ・スクール、頑張ってやっ

ていただければありがたいと思います。

次に、開かれた学校ということでご答弁いただきましたが、町民の皆様の声は、必ずしもその方向とは言えないような気がいたします。安全・安心に重点を置くことは、理解はできますが、偏重が過ぎると管理的になりやすいのではと考えます。もっと子どもたちに目を向けて、いろいろな体験をさせてほしいと父兄からも言われてございますが、その点はどんなふうにお考えでございましょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

お答えになるかどうかわかりませんが、議員がおっしゃる管理的になるというのは、余り委員会で、こういうことをやりなさいとかということも多くするということでしょうか。違うのですか。

○議長（茅沼隆文）

では、下山議員、もう一度、質問をお願いいたします。

○7番（下山千津子）

先ほど教育長のご答弁の中に、本町において、全町民が教育にかかわる仕組みづくりの3問目のご答弁の中に、開かれた学校を目指し、学校へ行こう週間や、学校開放日を設け、より多くの町民の方々に、学校や子どもたちの様子を見ていただく機会も充実させていきたいとご答弁いただいた中で、開かれた学校を目指すということでお聞きしました。

○議長（茅沼隆文）

それで質問趣旨は。

○7番（下山千津子）

それで、南小学校などは子どもたちが30分ぐらい道路に並んで開門を待っているという現実が、私も行きましたのですが、ああいうのはいかがでしょうか。もう少し臨機応変にお考えいただければありがたいと思います。私の子どもころは、学校にいち早く行って、校庭で遊んだりするのが楽しみでございました。ですから、余り管理体制を強固にするということでお聞きいたしております。よろしく願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

わかりました。開かれた学校というのは、もう少し門を開けということのようですが、現状としては、交通指導のときに、松田の警察署長さんにも言われましたけれども、なぜ、もっと早く開けないんだということでありましたけれども、学校のいわゆる管理というのは、500人の子どもを安全に校内で、管理というよりは指導する生活を見届けるということですので、先生方の生活もありますので、最大30分ぐらいの早い登校しかないのですよということで、7時50分という形で、今、門を

開くようにしております。校長から指導していただきましたので、今のところ、50分前に来る子どもはまばらです。一時期は本当にたくさんいて、安全を確保するためにはどうすればいいかということを考えたのですが、一応用務員さんを雇いまして、施錠と解錠につきましては、極力教師が登校する前にあけるようにしておりますので、その辺については30分が限界という形で、今のところは考えています。

議員おっしゃるように、朝から誰でも入れる学校というのは大変好ましいし、そうすべきだとは考えていますが、今のところ、安全性が確保されないために、30分という時間の中で、子どもたちの自由な時間を確保するというところで取り組んでおります。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ただいま門の例をとったのでございますが、施設に関してもそうなんですが、このコミュニティ・スクールの梶原敏明氏は、公共施設は皆様の税金で立てられているもので、その施設は自由に使うことが基本的にはできるのだというお話をなさいました。そういった点で、例えば、学校施設の調理室とか、あとは町民からも学校施設が思うように、自由に使えないんだよというお言葉を伺ってございますので、開かれた学校ということで、そういう意味でお聞きをいたしました。その点はいかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

お答えします。以前にも、南小学校の調理室の問題につきましては、使いにくいということがありました。事実、今あるかということはありません。というのは、町民センターにも調理室がありますので、そちらが満ぱいの場合等に利用したらどうですかというふうに連携をとりまして、誰でも使えるということではなくて、一応登録制をとっております。学校施設等利用申込書というので申し込んでいただきまして、それぞれかち合うところもありますので、調整会議を開きながら、平等に、委員がおっしゃるように、誰もが使えるようなシステムで運営しようと努力はしております。

当初、開放したときに、南小学校の調理室をお断りした理由は、一つは包丁の問題がありまして、ちょっと危険性があるということで、別枠でどうかということで、社会教育用の包丁を確保すればできるのではないかとということで、そちらも検討しまして、今は使えるようになっていますので、ぜひ、町民の皆様にも、ご自由に使えるので、ぜひ使ってくださいと議員からも進めていただけたらと思います。全然、今、利用はありません。よろしくお願いします。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

私に言われた町民には、そのようにお答えをさせていただきます。

では、次に4問目の地域の教育力日本一を目指すことへの具体的な方策についてにいきます。

各委員会などの会議の中で出される貴重なご意見を共有して、町全体として取り組んでいけるよう、広報活動にも力を入れていきたいとおっしゃいましたが、広報活動の具体策などについて伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

お答えします。今は議員も見られていると思いますけれども、広報の中の4分の1ページですけれども、学校で行われている実践を報告しながら、このような形で、町民の協力があったり、ご意見があたりして、こう進めていますよという形で、広く広報活動しているというのが現状でございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

紙媒体のみでございますか、そういう広報活動というのは、具体的に。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

お答えします。広報が主で、ホームページに教育委員会の活動というのと、教育委員会の議事録の公表とかありますので、全くしていないわけではないのですけれども、紙媒体が主と考えてよろしいかと思います。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

それで、私、ちょっと提案させていただきたいのですが、広報活動だけではなくて、広聴活動も並行して実施されたいかなと思います。

町では、ホームページだけでなく、フェイスブックも立ち上がったことですし、若者を取り込んだ発信、展開など、町民の生の意見を直接やりとりするチャンスがございます。先進的な取り組みではないかなと思います。

あとは、これも開成町の自治会で行ったことでございますが、標語の募集などをしますと、町民の関心度も高くなるわけでございます。そういう点ではいかがでございましょうか。こういったものを取り入れるというお考えはいかがでございましょうか。

○議長（茅沼隆文）

質問の趣旨は、フェイスブックを利用すること、もしくは標語等について、町民に募集をかけるということですね。

○7番（下山千津子）

はい、そうです。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

その都度、いろいろな場では、子ども会にしましても子ども会だよりを発行して、婦人会も婦人会だよりを発行しますし、コミュニティだよりも発行していますし、それぞれの中では、課題となっているものについて広報活動をしています。議員おっしゃるように、広聴活動、ホームページ云々ということにつきましては今後考えていく必要があるかなと思いますけれども、今のところ難しいかなと思っています。やっていく方向で検討はしたいと思っていますけれども、若干難しいところがあるかなと思います。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ぜひ前進していただければと思います。

府川町政が目指す「教育のまちかいせい」の将来像の中で、新たな調整の中にプレイパーク、冒険遊びの設置とあり、9月5日の土曜日に、10時から3時までの間に実施されたところでございますが、関係者は当初30人ぐらい集まってくればよいと考えていたのだけでも、何と260人ほどの親子の参加があったと聞きました。私も伺ったわけですが、中家村公園いっぱいに子どもたちの元気な声が飛び交ってありました。親御さんたちも、泥遊びや水遊びなどで、本当に童心に返ったように楽しんでおられました。至るところに工夫がされておりました。また、賑やかで、びっくりもいたしました。この子どもたちが健やかに育ち、小学生、中学生を経て、生きる力をつけ、自立できる大人に、社会人になってほしいなと願いました。府川町政のこの取り組みが継続し、近い将来、北部にも常設型のプレイパークができるといいなと考えました。

自治体と地域住民が、自ら地域の将来のあり方を選択する覚悟が、本当の教育日本一を生み出す基盤になると信じております。ネットワークの力、小さな声を聞く力、リーダーシップを発揮され、開成町らしい作品の大綱策定まで6カ月です。期待して、質問を終わります。

○議長（茅沼隆文）

暫時休憩といたします。再開を10時45分といたします。

午前10時30分